

## 平成30年度 第2回地域医療推進部会議事録

1. 日 時 平成30年11月13日(火) 第2回帯広市健康生活支援審議会終了後  
19:35~20:30
2. 場 所 市役所 10階 第5B会議室
3. 出席委員 稲葉秀一部会長、大滝達哉副部長、一柳伸吾委員、宇野雅樹委員  
佐々木修一委員、住谷晋専門委員、森茂樹専門委員、車谷香織専門委員  
(横尾洋子専門委員 欠席)
4. 会議次第
  - (1) 前回・前々回会議の議事録(案)の確認
  - (2) 平成29年度 健康推進課決算について
  - (3) 平成29年度 保健事業について
  - (4) 平成29年度 休日夜間急病センター実績について
  - (5) その他

### 5. 会議内容

#### ○事務局

こんばんは。

ただ今から、平成30年度第2回地域医療推進部会を開会いたします。

本日は横尾委員から欠席のご連絡があり、委員9名中、8名のご出席となっております。出席人数が委員の過半数に達していますことから、本日の部会は成立しております。

それでは、これより議事の進行につきましては、稲葉部会長にお願いいたします。

#### ◎部会長

それでは、会議に入らせていただきます。

最初に、前回、前々回の会議の議事録(案)の確認についてを議題といたします。この議事録は、この場でご確認いただいた後、公開される予定となっております。

議事録につきまして、ご質問やご意見があればお願いします。

【質疑なし】

別になければ、議事録は了承されたものといたします。

次に、「平成29年度健康推進課決算について」を議題といたします。  
事務局から、説明願います。

## ○事務局

資料1 平成29年度健康推進課決算の概要について、ご説明させていただきます。

総事業費は9億9千3万2,8218円でございます。

内訳ですが、まず資料左側「保健衛生総務費」は決算額2億9,167万4,222円となっております。

主な事業といたしましては、「保健衛生推進費」として、健康まつりの運営費の負担、難病連十勝支部の事業への補助、AED 貸借などのほか、「食・運動改善推進費」として、食生活改善推進員と健康づくり推進員の養成及び育成等、「公衆浴場対策費」として、市内の公衆浴場の確保と活性化のための各種事業への補助、ふれあい銭湯事業補助等を実施いたしました。

なお、①と番号をふっております、ふれあい銭湯事業につきましては、平成29年度から、65歳以上の高齢者にも対象を拡大したものです。

次に「訪問看護促進費」として、北海道総合在宅医療ケア事業団の会費、「健康増進センター管理費」として、大正と川西の健康増進センターの運営管理、「看護師等養成機関確保対策費」として、十勝管内19市町村で運営している高等看護学院の運営費分担金、市内に2箇所ある看護師養成機関に対する補助等、「帯広厚生病院運営費補助事業費」として、管内19市町村による帯広厚生病院の運営支援、新規事業としてのすこやかネット事業、心身障害者歯科治療費補助などを実施しました。

このうち、②、新規事業のすこやかネットにつきましては、国のICT、まち・ひと・しごと創生推進事業を活用した事業であります。マイナンバーカードを活用した、子育て支援機能や健康管理機能を備えた、帯広市すこやかネットのシステムを構築することにより、市民が健康に暮らせるまちづくりを推進するものです。国の情報通信技術利活用事業補助金利用のため、このシステム構築にかかる帯広市の一般財源負担はありません。平成30年6月末現在、登録者は24名、アクセス数は4,604件となっております。

次に、資料中央の「予防費」につきましては、決算額5億2,614万7,940円となっております。

主な事業といたしまして、「がん検診、健康診査費」として、各種がん検診、肝炎ウイルス検診、市民健康診査、骨粗しょう検診等に要する経費、「予防接種費」として、各種定期の予防接種費用、「感染症予防費」として、65歳以上の高齢者等及び中学3年生、高校3年生に対する季節性インフルエンザ予防接種、65歳以上5歳刻みの高齢者等に対する成人用肺炎球菌ワクチン予防接種、エキノкокクス症検査を実施しております。また「結核予防費」として、結核検診、「健康相談費」として、保健師や栄養士のほか、心理相談員などの専門家による相談、「健康教育費」として、各種健康講座、スマートライフプロジェクトの推進を行いました。

③の自殺対策事業につきましては、自殺対策基本法改正により策定が義務付けされました、市町村自殺対策計画として、平成29年度に帯広市自殺対策計画（第二期けんこう帯広21改訂版）を国のモデル事業を活用して策定しました。自殺対策関連事業として、多分野合同研修会、ゲートキーパー研修会、管理職研修、SOSの出し方教室などを実施したものです。

また、「訪問保健指導費」として、保健師の個別訪問による保健指導、「身体障害者体力向上事業費」として、保健福祉センターでの身体障害者を対象にした身体機能向上を目的としたトレーニング事業などを実施しました。

次に、「夜間急病診療費」は、決算額1億3,011万9,343円でございます。

主な事業といたしましては、まず「休日夜間急病センター管理運営費」として、指定管理による休日夜間急病センターの管理運営を行っているものです。平成29年度から利用料金制が導入され、平成28年度までは市の歳入となっていた診察料は、指定管理者が収納し運用することとなったものです。診察料を指定管理者が管理できることで、利用者へのスムーズな対応が可能となり、より効率的な経

営ができるものと考えております。利用料金制の導入により、指定管理料は、前年度と比較し、1億5,155万6,000円の減となっているものでございます。

次に、「救急医療対策費」として、在宅当番、二次救急医療、休日歯科診療業務、急病テレホンセンターなどの運営の委託、小児救急医療の補助を行ったものです。

最後に「保健福祉センター費」は、決算額4,209万713円となっております。東8条南13丁目にあります「保健福祉センター」の管理運営に要する費用でございます。

以上、平成29年度決算の概要でございます。

◎部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○委員

帯広厚生病院への運営費補助について、金額も大きいので、もう少し細かい内容を伺います。

○事務局

帯広厚生病院の不採算4部門、救命救急センター・小児救急医療・周産期医療・小児医療に対し、運営費を補助しているものです。十勝全体で支援しており、全体の補助額のうち、帯広市の負担は7割分となっております。残りの3割は、管内町村が、それぞれの利用者数の割合等に応じ負担しているものです。なお、帯広市の決算額のうち約7割は、国の特別交付税措置がされております。

◎部会長

厚生病院への運営費補助の内訳のほか、小児救急医療支援事業もありますが、この小児救急医療支援事業は、さきほどの厚生病院の小児救急医療・小児医療への補助とは別のものですか。

○事務局

小児救急医療支援事業についての決算額は、協会病院の二次救急体制の小児科当番に対する補助金です。

◎部会長

協会病院の周産期医療に対する補助は、どこに入っているのですか。

○事務局

後ほど確認し、回答させていただきます。

○委員

成人用肺炎球菌予防接種について、自己負担額は、2,900円となっております。この自己負担額は、全国で統一された金額なのか、それとも自治体でばらばらなのか、また他市と比較して、帯広市の金額はどの程度なのか伺います。

○事務局

自己負担額の設定は、それぞれの自治体で異なります。他市の金額設定については、今詳細な

数字は持ち合わせておりませんが、自己負担額を設定するときには、各市の状況を調査しておりますので、他市と比較し、極端に高い低いといった金額ではないと考えます。他市の状況については後日確認してお答えします。

○委員

成人用肺炎球菌予防接種の自己負担額は、インフルエンザなどと比べても、高額です。国でも接種を推奨していますが、高齢者は年金生活なので、個人負担が高いと、受けたくても受けられない場合もあります。自己負担額を低くし、多くの人が受けられるようにしていただきたいと思います。

○事務局

ご意見として承ります。

◎部会長

他市の金額については、確認してお知らせください。他にありますか。

○委員

健康づくり推進員と食生活改善推進員の養成・育成事業とありますが、それぞれの推進員はどのような活動を行っているのでしょうか。

○事務局

健康づくり推進員は、運動の講師として、地域の自主グループ等に出向いております。また健康まつりにおいても、運動に関する指導の協力をいただいています。

食生活推進委員は、調理を通して食生活改善の指導をしています。

○委員

女性特有のがん予防対策に係る経費は、少額ですが、具体的にはどのようなことに使われた経費でしょうか。

○事務局

普及啓発のための消耗品と、職員が研修会に出席するための旅費として支出しています。

○委員

すこやかネットに係る経費として、2,880万円余りが支出されています。登録者は24名とのことですが、利用者数は広がっている状況ですか。また、5年間など、一定期間の中で進めている事業なのですか。

○事務局

子育ての分野については、利用者が広がってきています。一方成人については、まだメニューが少なく、メリットがあまり無い状況です。ポケットカルテや、服薬・受診管理のメニューなど、内容については検討を行っているところです。

システム立ち上げまでは、国の事業費で行い、運営については、単年度の委託契約で行っています。

◎部会長

セキュリティ管理も重要ですね。常に課題となる点だと思います。

○事務局

マイナンバーカードを登録の上、使ってもらうことが基本です。セキュリティ管理については、しっかり行って参ります。

○委員

予防費中、ピロリ菌尿中抗体検査の決算額はいくらですか。

○事務局

決算額は、69万228円です。内訳といたしましては、756円×913人となっています。

◎部会長

がん検診・健康診査費のその他経費に振り分けられている金額が大きいので、主な経費だけでも内訳を載せるようにしてください。

○事務局

そのように対応させていただきます。その他経費の主な内容といたしましては、個別には振り分けにくい委託料等となっています。今後、主要な経費だけでも内訳を記載するようにいたします。

◎部会長

他になければ、質疑を終了いたします。

次に、「平成29年度保健事業について」を議題といたします。

事務局から、説明願います。

○事務局

平成29年度保健事業についてご説明いたします。

資料2の1ページ目の「1. 保健福祉センターの利用状況」をご覧ください。

(1) 事業等の利用状況であります。表の一番下に記載しています合計数の利用者の推移をご覧ください。平成28年度に比べ、平成29年度は利用件数、利用者数とも、若干増加しておりますが、ほぼ横ばいとなっております。

(2) 各種相談の利用状況では、相談内容により、多少の増減はありますが、概ね平成28年度と同様の利用者数となっております。

次に、「2. 感染症などの予防」をご覧ください。

(1) 予防接種の実施状況は、ご覧のとおりとなっております。接種率につきましては、後ほど資料2-1でご説明させていただきます。

次に、2ページ目をご覧ください。

(2) 結核検診の実施状況につきまして、受診者数は、概ね昨年度と同様となっております。

(3) インフルエンザ予防接種の状況ですが、中3、高3と65歳以上の高齢者等に対する接種事業

を実施し、実績は記載のとおりとなっております。こちら、接種率につきましては、後ほどご説明させていただきます。

(4) 成人用肺炎球菌予防接種は平成 26 年度 10 月に開始となり 65 歳以上 5 歳刻みの年齢の高齢者を対象に実施しています。対象年齢がわかりづらいこと等から、対象者へ個別に周知しています。実績は記載のとおりでございます。

(5) エキノコックス症検診の実施状況については、小中学生、一般とも、受診者が増加している状況でございます。

予防接種の接種率について、資料 2-1 をご覧ください。

0 歳児から接種する四種混合ワクチン、BCG、ヒブ、小児肺炎球菌、B 型肝炎について高い接種率となっております。麻しん風しん混合ワクチンについて、接種率は 92.4%です。一期 1 歳児の接種率は 93.1 (前年 95.9) %、二期年長時については 91.8 (前年 94.4) %となっております。

二種混合については、11 歳～13 歳未満が対象者のため、乳幼児より低い接種率で推移しております。

高齢者の肺炎球菌予防接種につきましては、前年度と比較し、1.1%の減です。65 歳以上 5 歳刻みが対象ということもあり、対象者となる前に任意で接種されている方もいると考えられます。高齢者のインフルエンザにつきましては、前年度対比、2.8%の減となっております。

中 3 高 3 のインフルエンザにつきましては、年々対象者数が減少しております。接種率につきましては、高齢者と同様に減少しており、対前年比、5.5%減となっております。インフルエンザワクチンの供給不足が要因のひとつであったと考えております。資料 2-1 の説明は、以上でございます。

資料 2 にお戻りいただき、2 ページ目中段、「3. 生活習慣病の予防」をご覧ください。

(1) 健康教育の実施状況では、働き盛りの人への健康づくりを進め、年々企業からの依頼が多く、参加人数は増加傾向となっております。

(2) 健康づくり講座・教室では、表のと通りの事業を実施してきております。糖尿病重症化予防の保健指導につきましては、平成 29 年度から小集団の説明会とし、その他個別面接を行っているため、人数については減となっております。

3 ページをご覧ください。

(3) 健康相談、(4) 訪問指導、(5) 身体障害者体力向上トレーニング事業につきましては、表のとおりとなっております。健康相談の周知や健診事後の対策強化により、利用者数は伸びているものです。

次に、(6) 検診の実施状況であります。受診者数は、ご覧のとおりとなっております。受診率につきましては、この後、資料 2-2 でご説明させていただきます。また、平成 28 年度から中学 3 年生にピロリ菌検査を実施しております。

各種検診受診者数の推移について、資料 2-2 をご覧ください。

がん検診については、前年度と比べ、受診率は増加しております。託児サービスの実施や女性専用の検診日を設けるなど、がん検診を受けやすい環境整備に継続して取り組んできたことや、ホームページや SNS を利用して検診受診の重要性を周知していることの効果が、一定程度現れたものと考えております。資料 2-2 の説明は、以上でございます。

資料 2 にお戻りいただき、3 ページの、「7. 市民検診・健康診査の保健指導」をご覧ください。

(7) は、記載のとおりとなっております。

(8) 健診事後指導については、訪問等の保健指導に重点を置き、対象者の見直しを行ったため、減とな

っております。

4 ページをご覧ください。

4. 「自殺対策」につきましては、自殺対策関連事業として、多分野合同研修会、ゲートキーパー研修会、管理職研修、SOS の出し方教室を実施し、参加人数はご覧のとおりとなっております。

最後に、「5. 救急医療体制に関する実施状況」であります。帯広市では、夜間・休日等における医療不安の解消と急病患者に対処するため、休日夜間急病センター運営事業や、医療機関の協力をいただき、在宅当番医制や二次救急医療体制を確立しております。利用状況等につきましては、ご覧のとおりです。休日夜間急病センターの実績につきましては、議事の（4）でご説明させていただきます。説明は以上でございます。

◎部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

○委員

各種検診の中に、歯科検診をぜひ入れていただきたい。国保歯科検診はあるが、国保だけではなく帯広市民全員が受けられる歯科検診の実現をぜひお願いします。

○委員

糖尿病重症化予防については、これからどのように実施していく考えか伺います。小集団での結果説明会を実施した感触、効果はどうですか。

○事務局

小集団での結果説明会を行いながら、どのようにしたら効果を得られるか、試行錯誤しながら実施しているところです。まだ始めたばかりのため、具体的な成果としてお伝えすることは難しいですが、帯広市では、糖尿病患者も多く、医療費もかかっています。保健指導が有効に働くよう工夫しながら、引き続き取り組みを進めて参りたいと考えています。

○委員

自殺対策について、内容も変わっているようですが、どのようなことを行ったのですか。

○事務局

管理職研修については、市職員の管理職全員を対象に行いました。また、自殺を食い止めるためSOS の出し方教室に力を入れているところです。

○委員

SOS の出し方教室は、どのような方を対象に行っているのでしょうか。

○事務局

主に、学生に対し行っています。柏葉高校の定時制や、看護学校に出向き実施しました。

○委員

麻疹・風疹の予防接種率が下がっていて、95%を切っています。この要因をどのように分析してい

ますか。

○事務局

毎年、対象者は全て入れ替わるため、前年度の接種率が低かった要因の正確な分析は難しいところ  
です。麻疹の接種率は、市の政策施策評価の指標にもなっており、そちらの分析の中では、去年は、  
5月頃に季節はずれのインフルエンザが流行したことから、接種時期を逃してしまった方もいて、こ  
れも接種率の低下の一因ではと考えているところです。

○委員

検診等の場での周知啓発は行っているのですよね。

○事務局

個別通知や再勧奨、乳幼児健診や就学時検診における啓発、保育所・幼稚園への周知、広報など  
周知啓発には力をいれております。

◎部会長

麻疹・風疹の予防接種率の低下は、大きな問題です。接種率を向上させるよう、対象者に周知啓発  
をしっかりと行ってください。

○委員

がん検診率について、全体的に受診率は上がっているようです。受けない人から理由を聞くと、時  
間が合わない、費用が高いなどの声が聞かれます。更にもう少し受診率を上げるため、クーポン利用、  
休日の実施など、次年度に向けて、受けやすくなる工夫していただきたいと思います。

○委員

今までにも話があったとおり、肺炎球菌の接種率を上げることもそうですが、歯科検診による予防  
をしっかりと行っていただきたいと思います。将来的に病気の人を増やさないために、歯科検診は大  
変重要と考えます。私からも、歯科検診の充実をお願いいたします。

◎部会長

乳がん・子宮がん予防の講座・講演会について、回数はほぼ変わらないのに、人数が減っています。  
何か要因があったのでしょうか。

○事務局

要望のあった団体に出向き、講座を行っています。どのような団体に出向いたかは、詳細な資料を  
持ち合わせておりませんが、その団体の人数が少なかったということだと考えます。人数を増やす努  
力が必要だと考えますので、これからも講座を周知し、お声をかけていただけるよう取り組んで参り  
ます。

◎部会長

他になければ、質疑を終了いたします。



次に、「平成 29 年度帯広市休日夜間急病センター実績について」事務局から、説明願います。

○事務局

資料 3 をご覧ください。「帯広市休日夜間急病センター実績について」ご説明いたします。

休日夜間急病センターは、平成 26 年度に新築移転し、休日と夜間の初期救急を指定管理により運営しています。

平成 29 年度の患者数の実績につきましては、夜間は、年間合計で 6,807 人と、前年度の約 98%、休日は、8,760 人で前年度の約 101%となっており、概ね前年度と同様の患者数となっております。

休日夜間急病センターの運営にあたっては、「運営専門会議」を設置しており、継続的に検討協議を行っております。説明は、以上でございます。

◎部会長

ただいまの事務局の説明につきまして、何かご質問やご意見はございますか。

【質疑なし】

◎部会長

特になければ、質疑を終了いたします。

次に、その他について、委員の皆様から何かありますか。

○委員

潜在看護師を対象とした訪問看護研修会について、対象を、(現在子育て等の理由により離職している)潜在看護師に限ると、参加人数が数人になってしまう現状です。今後、訪問看護師の需要がますます増えていく中、多くの看護師に訪問看護について、知っていただきたいと考えています。病院や施設に勤務している看護師で、訪問看護に興味がある方にも対象を広げていただけるようお願いいたします。

○委員

効果的な広報のしかたについて、何か取り組みをしているのでしょうか。

○事務局

高齢者には、やはりなじみのある紙ベースの広報が有効だと考えています。

健康推進課のホームページについては、たとえば、ピンクリボン月間には、そういった仕様のインパクトのある画面にするなど、工夫をしています。広報以外の周知啓発としては、イベントで人が集まっているところに出向き、その対象者に合わせたチラシを配布するといったことも行っています。地道に様々な機会を捉え、周知を行っていきたいと考えています。

◎部会長

ひとつの方法ではなく、様々なツールを使うことが必要ですね。私たち医療機関にポスターを貼る

ことも可能です。

○委員

たとえば、自殺対策の場合など、若者向けにはSNSが有効なのかもしれませんね。対象者に合わせた柔軟な対応をお願いしたいと思います。

◎部会長

他になければ、事務局から何かありますか。

○事務局

次回の地域医療推進部会の日程につきましては、例年2月に予算等をご説明するため審議会の日程と併せて設定させていただいているところであります。具体的には稲葉部会長と調整のうえ、委員の皆様にご案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎部会長

今年は、例年以上に大変多くの意見が出たところです。それだけ、地域医療行政に対して、皆さんが非常に熱い思いをもっているということです。この思いをぜひ酌んでいただき、少しでも施策に反映していただくよう、よろしくお願いいたします。

以上で予定されている議事は終了いたしました。

本日は、これで閉会といたします。お疲れ様でした。